

校長室だより
NO. 5
平成30年4月24日

すべては光る

梅園小学校長
たか すりょうへい
高 須 亮 平

学級代表と1年生のお世話係、委員会委員長を任命しました

4月21日(土)の授業参観、PTA総会、引き渡し訓練には、多くの保護者の方々にご来校いただき、ありがとうございました。1年生の授業は初めての公開で、保護者の方々は楽しみにしていたことと思います。子どもたちの新しい学級で楽しそうにがんばって学ぶ姿を参観していただきました。



春の風の中を泳ぐこいのぼり

さて、先週の初めの4月16日(月)の朝会で、本年度初めて全校の子どもたちが体育館にそろいました。そこで、本年度前期、または1学期の学級代表(MAX)、1年生のお世話係、ありんこ長(委員会の委員長)を任命しました。この任命は、2年前から学級や学校のリーダーとなる子どもたちです。その自覚と責任を促すために始めたものです。そこでの子どもたちの堂々とした返事やほどよく緊張した態度から、やる気があふれているように感じました。この平成30年度の実質的なスタートがとても気持ちよくできました。

任命をした子どもたちは次のようです。学級代表(MAX)は2年生からで、学級男女各1名です。1年生のお世話係はペア学級の6年生男女各1名です。ありんこ長はありんこの代表で各1名です。学級代表やありんこ長は、その集団のリーダーです。

【学級代表】

2年	1組	[Redacted]	2組	[Redacted]
	3組			
3年	1組	[Redacted]	2組	[Redacted]
	3組			
4年	1組	[Redacted]	2組	[Redacted]
	3組			
5年	1組	[Redacted]	2組	[Redacted]
	3組			
6年	1組	[Redacted]	2組	[Redacted]
	3組			

【1年お世話係(6年)】

1年	1組	[Redacted]	(6年1組)
	2組	[Redacted]	(6年2組)
	3組	[Redacted]	(6年3組)
	4組	[Redacted]	(6年4組)
	5組	[Redacted]	(6年1組)



ニュートンのリンゴの花

【ありんこ長（委員長）】

梅っ子放送局	(放送)	(6年2組)
給食ねこの手	(給食)	(6年1組)
ミュージックステージ	(音楽)	(6年4組)
ハッピー梅っ子JRC	(奉仕)	(6年1組)
梅っ子ブック	(図書)	(6年4組)
梅ピカ株式会社	(美化)	(6年3組)
QQ隊	(保健)	(6年3組)
梅っ子スポーツ	(運動)	(6年3組)
梅っ子花職人	(緑化)	(6年1組)
梅っ子スマイル	(生活)	(6年2組)
MAX	(代表)	(6年4組)



通学班の班長もリーダーです

特に学級代表を2年生から任命し、集団を少しずつ意識した考えや行動がとれる子どもを早い頃から育てようと考えています。それはなぜかと言いますと、最近、リーダーシップのある子が減ってきているように感じるからです。梅園小学校の子どもは、人前へ出ると一歩引くような面があることを少し感じ始めていたのです。しかし、本来の子どもは、自分で進んで何かをやってみたいと思うものですし、友達と力を合わせたいと自然に思うものです。そんな本来の気持ちを素直に表現できるようにしようと、学級や学校でのリーダーを育てようと考えています。



元気な返事で並ぶ学級代表

そのためには、まずは、責任が伴う場に子どもを置くこと、つまり役割を持ち、経験する場を設定することが大切です。その中でのちょっとした成功体験により自信を持つことができますし、新しいことに挑戦することにより、友達とチームで動くことを覚えたりできます。そのような積み重ねにより、小さな「できる」自信が、やがてはどんな環境でも揺るがない芯のある子どもになると考えます。特に、引込み思案な子どもには具体的なハードルを与えることが大切であり、「できる」体験を1つ1つ積むことにより、「自分でもできる、自分ができることは助けてもらおう」ということを身に付けることができます。

また、困ったことがあったら、リーダーとして友達と力を合わせて解決しようとする力も育てたいものです。子どもが困っていると、大人はついつい手を差し伸べてしまいたくなります。でも、そのときこそが問題解決の力を育てる最高のチャンスです。どうしようもなく大きく思えた問題も「力を合わせて解決できた！」という自信をつけられるように支えたいものです。「なぜ力を合わせられないのか」という思いから「どうしたら力を合わせられるのか」というように前向きに考えられる子どもに育てたいと思います。そうすると、よりよい集団づくりには、リーダーだけでなくリーダーを支えるフォロワーの存在も不可欠ということに気付くことでしょう。

そのようなことを通して、子どもは集団の中で育ち、学校が社会の仕組みを学ぶ重要な場となっていくと考えるのです。